

インクル

第8号

財団法人 共用品推進機構

〒101-0064
東京都千代田区猿樂町
2-5-4 OGAビル 8階

"Incl." by The Kyoyo-Hin Foundation



(イラスト: 牧内 智子)

目次 / Contents

- ・米国バリアフリー報告 共用品を支えるサービスとハート
第3回 バリアフリー美術館訪問記(草地美穂子)..... 2
- ・特集:「触地図」を考える
急速な普及に見る「共用品化」への新たな課題 4
CD-ROM版バリアフリーマップ『いってきまっぷ』、杉並区が配布 7
- ・Welcome to the Kyoyo-Hin World!
「国際福祉機器展」ブースマップ(西川菜美、橋本英和) 8
- ・ニュース&トピックス
[新製品]
松下電器産業、「光るリング」付きのIHヒーター
完装、「サンクリア」の新タイプ 10
日立製作所、インターネットができる意思伝達装置「伝の心」
サン・ビーム、おしゃれなステッキ用ストラップ 11
- [共用品推進機構]
「バリアフリーでクッキング」展
ATCエイジレスセンターで開催中 12
- [事務局長だより]
赤、青、黒はみな同じ色!?
「色」の違いを「文字」で知る(星川安之) 13
- ・キーワードで考える共用品講座
第8講「共用品の商品ガイド」(後藤芳一) 14
- ・点描・インクルの微笑み
共用品発掘隊、韓国に行く(森川美和) 15
- ・『インクル』からのお願い / 奥付 16



共用品を支えるサービスとハート

バリアフリー美術館訪問記

くさち みほこ
草地 美穂子 (在サンフランシスコ、カリフォルニア州立大学在学中)

第

3
回

芸術の秋。夏バテ気味の体と心を知的に回復する絶好の季節。今回は、アメリカの公共施設の中でも、ハード(建物)・ソフト(プログラム)ともに、包括的なアクセス保障サービスを提供している美術館を訪ねた。

アメリカでさまざまな公共施設を利用すると気づくのは、個々の施設ごとに「アクセス保障」を担う部門があり、利用者に幅広いサービスを提供していることである。

どの施設も「万人に平等に利用されなければならない」ので、視覚障害者専用の点字図書館とか聴覚障害者向けの情報文化センターといった施設を建てようという発想はない。これらはむしろ、障害者の「特別扱い」や「差別」と見なされ、「時代遅れ」ということになる。

休館日に「アクセスデー」 多彩なアクセス保障サービス

特別な配慮が必要な参観者のために、通常休館日に臨時オープンする美術館があるというので、出かけてみた。訪問先は、緑深いゴールデンゲート公園

内のデ・ヤング記念美術館。サンフランシスコ市立美術館2館のうちの1つである。いつもは休館の月曜日でも、特別展示期間中(1~2カ月)の1日は「アクセスデー」として臨時開館する。

指定時刻の1時半に着くと、すでに10人ほどが集まっていた。この日3組目のグループという。半数は車いすか杖を使用する人たち、残りは彼らの介助者と見受けられた。

「この作品は……」。最初のギャラリーに入ると、さっそくガイドのリンさんが朗々と展示品の解説を始めた。普段ならざわめきや残響で、ガイドの説明が聞き取れない聴覚障害者の私でもこの日はよくわかった。もっと重度の難聴者なら補聴援助システム(ガイドの声が耳元で聞こえる)も借りられる。

デ美術館は多くのギャラリーに分かれているので、車いすや杖を使う人は移動に時間がかかる。約1時間ほどの案内中、リンさんは常にグループ全員がそろってから話し始める配慮を欠かさなかった。彼女のほかにもアクセス担当員が2人、いすを持って同行してくれたので、高齢者や杖を使う人はいつでも座って解説を聞くことができた。

参観者のひとり、ナンシーさんは「今日初めて来



デ・ヤング美術館の全景。最寄りのバス停からは、段差も道路の横断もなく入り口に着ける(撮影:草地美穂子)



スロープが整備された館内。キャロルさんとその友人はアクセスデーのリピーターだ(撮影:草地美穂子)

てみたけど、とてもリラックスして楽しめたわ。人にぶつからないようにと緊張することもないし、大きな(電動)車いすで周りの人を驚かすこともないしね。これからも来るのが楽しみ」と、感想を語ってくれた。

アクセスデーを利用するには、通常開館日では参観できない理由と、どのような配慮が必要かを事前に連絡すればよい。障害の特性・配慮の類似性などを考慮して、参観希望者は3人から10人くらいのグループに分けられる。予約や問い合わせ・アクセス手配のために専門事務局があり、直通の電話・TTY(前号参照)・ファクス・Eメールアドレスが用意されている。

ADA 制定をきっかけに充実 障害者も参加し、常に改善

デ美術館のアクセス保障は20年ほど前、視覚障害者へのサービスから始まった。その後、徐々に全障害者に対象を広げ、専門職員を置くようになったのはADA(障害のあるアメリカ民法)が完全発効した7年前からだ。現行サービスを常に検討・改善するため、主に障害者の代表によって構成される「アクセス委員会」が年2回集まって話し合う。

リンさんのようなアクセスデーのガイドに、障害者に接する時のマナー・注意点をアドバイスすることも彼らの仕事だ。ガイドのほうでも、就職前に別途正式な講習を受けており、障害別に異なる案内の方法を学ぶ。例えば、視覚障害者のためにはラジオスポーツ実況放送並みの話術、知的・発達障害者のためには抽象表現を具体的に言い換えたり、参観者の反応によって端的に要約できる能力が必要だという。

■デ・ヤング美術館のアクセス保障サービス

1. 移動障害	車いす(10台ほど)
2. 視覚障害	点字・大活字・録音テープ版の館内見取り図と展示作品ガイド、特別展示無料オーディオガイド(一般は有料)
3. 聴覚障害	手話通訳、補聴援助システム、特別展示活字版ガイド

(以下は筆者による「障害」の広義解釈と「アクセス」サービス)

4. スケジュール障害(暇のない人)	毎月第1水曜は午後8時45分まで延長開館(特別イベント時は10時まで)
5. 財政障害(お金のない人)	毎月第1水曜は無料開館、アクセスデー、学生対象年間有効フリーパス(10ドル)教育目的の無料団体参観、市内の小・中・高生は無料、その他多数の無料教育プログラム



ADA 制定 10 周年記念壁画

今年、米国バリアフリー史上最大のエポックメイキングな出来事といえるADA(障害のあるアメリカ民法)が成立して10年目に当たる。公共交通機関・電信電話・文化娯楽施設などへのアクセスは、この連邦法の強力な加護がなければ今のレベルまで到達し得なかった。

サンフランシスコ対岸のオークランドでは6月、障害者が多数参加して記念の壁画を創作した(=写真:草地美穂子撮影)。9月末まで各所で巡回制作され、最終的に集まった作品は近くオープン予定の障害者センターに常設展示される。

デ美術館のアクセス保障推進の成果は利用数の伸びに表れている。アクセスデー来館者と通常開館日のアクセスサービス(車いすなど)利用者の合計は、昨年度3290人と過去10年間で倍増した。が、事務局のブラウンさんはそれに甘んじていない。

「本当のゴールは、どんな人でも通常開館日に訪問でき、必要な配慮がいつでも受けられること。サービスを利用しない一般来館者でも20%までは何らかの障害を持っているはず。今後は聴覚障害など外見ではわからない障害のある人にも、いかにしてサービスを利用してもらうかが課題です。アクセスデーはあくまでもそのための1つの選択肢にすぎません」

特集 「触地図」を考える

急速な普及に見る「共用品化」への新たな課題

街角で、駅・ターミナルで、商業施設で、点字や浮き彫りの線が付いた「触地図」をよく見かけるようになった。ハートビル法や交通バリアフリー法、自治体による福祉のまちづくり条例などによるバリアフリーの社会資本整備の一環として、急速に設置が進んでいる。喜ばしい半面、残念ながら、利用されているところを目撃する機会はまだまだ少ないように思える。視覚障害者はもとより、みんながもっと利用しやすくするには何が求められるのか。いくつかの事例を紹介しつつ、考えてみた。（高嶋 健夫）

【阿佐ヶ谷】

地元商店街がアーケード入り口に設置

JR中央線・阿佐ヶ谷駅南口。七夕祭りで有名なパールセンター商店街。アーケードがかかるその入り口に昨年度、「触地図案内板」が設置された。阿佐ヶ谷駅周辺地区が東京都の「福祉のまちづくり整備事



東京・阿佐ヶ谷のパールセンター商店街の入り口に設置された音声ガイド付き触地図(撮影:高嶋健夫)

業」のモデル地区の1つに指定されたことから1995年度から進めてきたバリアフリー施設整備の一環だ。

実施主体は、パールセンターを管理する阿佐ヶ谷商店街振興組合。都と杉並区すぎなみの助成を受け、滑りにくい路面への改修、ICカードを使った音声誘導装置の設置(8カ所)などと併せて整備した。

この触知図案内板はセラミックの人工大理石製で、音声ガイドも付いている。同事業の杉並区の窓口である厚生部管理課によると、音声ガイドの内容などについては杉並盲人協会に意見を聞き、できるだけ「短く、簡潔な表現」にまとめたということだ。

【営団地下鉄】

独自仕様の「音声触知図式案内板」

東京の大動脈、営団地下鉄の駅構内でも触地図の設置が急ピッチで進んでいる。

帝都高速度交通営団なかざわいの運輸部施設課の中澤麗奈さんによると、8月時点で全159駅のうち、触地図の付いているのは18駅22カ所。第1号は、91年11月の南北線の第1次開通時に王子駅おうじに設置された。これだけが音声機能がなく、第2号からはすべて「音声触知図式案内板」と呼ばれる独自規格による触地図となっている。

主な設置駅は大手町おおてまち(4線4カ所)、渋谷しゅが(半蔵門線)、高田馬場たかだのばば、護国寺ごこくじなどで、南北線はじめ新駅のほか、外苑前がいえんまえ、門前仲町もんぜんなかちようなど最近、大規模な改修が行われた駅には必ず設置されるようになっている。営団では「年間5~6駅のペースで計画的に本格整備を進めている」(中澤さん)という。

営団地下鉄の触地図の主な特徴は、素材は傷つきにくい銅板製、高さは、東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアルに準拠して1500mmに、大きさは天地800mm×左右900mm程度に、地図は自分が立っている位置から見た方向に設置する(地図の方向と対面方向が一致)、音声ガイドは押し

営団地下鉄丸の内線大手町駅の改札口前にある音声ガイド付き触地図(提供:帝都高速度交通営団)



ボタン式で、現在位置、改札口、駅事務所、ホーム、トイレの位置などを案内する など。

製作しているのは、触地図の分野でも20年近い歴史を持つ日本点字図書館の点字製作課。担当の和田勉さんは「私たちのアドバイスをよく聞き入れていただき、現状では理想に近い内容となっている」と語る。地図については、視覚障害者誘導用ブロックを点線で表しているほか、階段は実際に手触りでも「上り下り」がわかるように立体表示するなど、きめ細かい配慮と工夫がこらされている。

また、音声ガイドは聞いて覚えられる限界を考慮して、1ボタンで最長1分30秒以内としている。そして、「左側に メートル行き……」といった具合に、必ず現在位置を起点に方向と距離を具体的に表現するなど、言い回しにも注意しているという。

営団地下鉄では「バリアフリー化の最優先課題は

エレベーターやエスカレーターの設置」としながらも、今後も新線・新駅の開業時、大規模改修時には順次、触地図を設置していく方針だ。

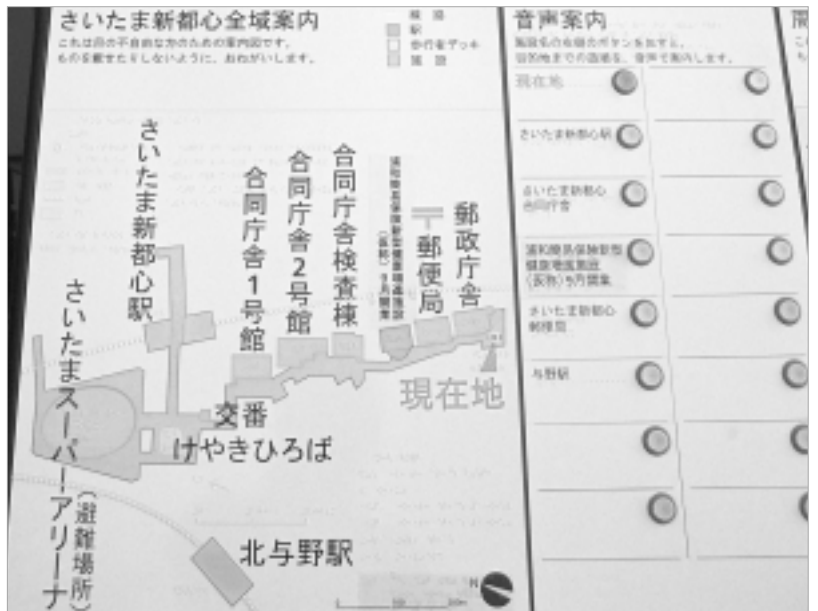
【さいたま新都心】 ユニバーサル志向の「共用サイン」

首都機能の分散化を目的に、浦和、大宮、与野の3市に誕生した「さいたま新都心」。街そのものがゼロから生まれた巨大人工都市だけに、触地図を含む誘導表示・サインシステムもまさにユニバーサルな観点で設計・デザインされている。新都心のサイン作りを担当したGK設計道具環境設計部道具設計室の加藤完治さん(個人賛助会員)は「今できるあらゆる手法を集約した実験モデル」と語る。

ここでは「晴眼者向けのサイン・案内図と視覚障害者用の触地図を共用品化する」ことが重要な目標となったという。具体的には、「誘導」の統一的なシンボルカラーとして黄色を全面採用し、誘導ブロックの黄色のラインが交差する場所に独特の「バリアフリーサイン」を設置した。これには大、中、小の3タイプある。フル装備の「大拠点サイン」なら、

聴覚障害者にもわかるように文字を表示する発光ダイオード(LED)の電光ボード、白抜き文字の案内サイン、4枚の地図・触地図を組み合わせた案内図 で構成されている。

案内図は実に手が込んでいる。まず、上部に墨字



さいたま新都心の「大拠点サイン」の全景(左)と、触地図と音声ガイド(提供:GK設計)

版の地図を当該地区の全体図と周辺の拡大図の2枚を設置。その下にそれぞれに対応する触地図を並べ、真ん中に音声ガイドのボタンを配置している。触地図は視覚障害者が触って理解できることを優先課題と考え、必要な情報だけに絞り、建物の位置関係やデザインなど一部をわざとわかりやすくデフォルメして描いている点が特徴。素材はステンレスホーロー仕上げで、専門メーカーのサカイシルクスクリーン（本社福井県吉田郡松岡町）が製作している。

【サン工芸】

アルミ板に点字・線を一体プレス加工

これに対して、1976年に最初の「点字案内板」を開発し、81年の京都市営地下鉄烏丸線開通時には全駅に設置した実績を持つ老舗メーカーのサン工芸（本社京都府久世群久御山町）では、独自開発した一体プレス加工によるアルミ金属製の案内板を一貫して供給している。

「京都市型」とでも呼ぶべき同社製品のこのほかの特徴は、高さは1400mmに、大きさは片手でもカバーできる1000mm×1000mm以内に、音声ガイドは押しボタンでなく、地図のどこに触れても流れるようにする、音声ガイドの長さは30秒以内

点字案内板の仕上がりをチェックする杉山悦雄・サン工芸社長（撮影：高嶋健夫）

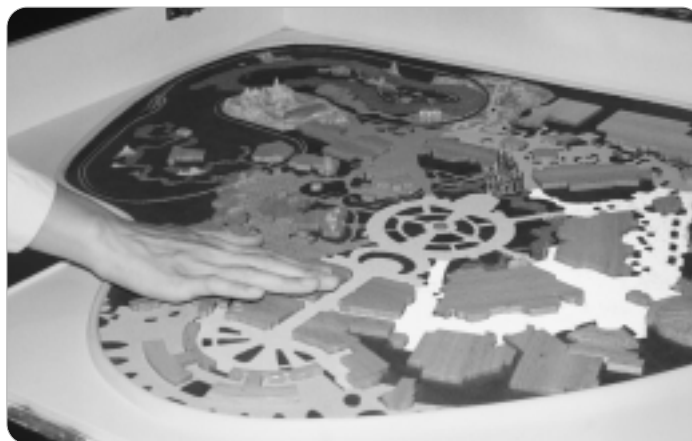


とし、内容は現在位置など必要最小限の情報にとどめる などの点だ。

最大の課題は 「設置場所をどう知らせるか」

こうして、ざっと見てきただけでも、素材から加工方法、表示や音声ガイドのやり方まで、規格や手法は乱立している状態と言える。そうした中で当然、視覚障害者をはじめとする利用者に混乱が生じないか、不安が出てくる。

この点について、前出の日本点字図書館の和田さんは「普及が本格化してきて、いろいろな方式が出



ディズニーランドの楽しい触地図

東京ディズニーランドにも触地図がある。ワールドバザールに4カ所あるほか、タウンタウンなど全部で7カ所。テーマごとに「触感」の違う布を貼り付けるなど、いかにもディズニーらしく、楽しく演出している。「照明を当てるようになっていくことでわかるように、みんなが使う共用品になっています」（望月庸光整備部マネージャー＝個人賛助会員）とのこと。「イクスピアリ」にも2カ所あるそうだ（撮影：高嶋健夫）

CD-ROM版バリアフリーマップ

『いってきまっぷ』、杉並区が配布

地域内の主要交通機関、公共施設などの利用しやすさを調べた「バリアフリーマップ」作りに取り組む地方自治体が増えている。東京都杉並区が作成した『やさしさ情報いってきまっぷ』は墨字版に加えて、比較的珍しいCD-ROM版(=写真)も用意。「情報提供のバリアフリー化」にも配慮した点が区民に好評だ。

このマップは区内を井草、西荻、荻窪、阿佐ヶ谷、高円寺、高井戸、方南・和泉の7地域に分け、各地域ごとに出張所、図書館、児童館などの公共施設、駅、さらにスーパー、コンビニエンスストア、個人商店、飲食店・レストランなどの民間施設のバリアフリーの整備状況を調べている。その結果は段差、自動ドア、トイレ(障害者対応、洋式、和式)、テーブルなど全部で16種類のピクトグラムによってわかりやすく表示している。

特にユニークなのは「自治体発行のマップなのに民間施設情報の充実に力を入れたこと(厚生部管理課)。昨年度、区の広報紙などを通じて募集し、高齢者や障害者が利用しやすいだけでなく、具体的なコメントを載せるなどの掲載条件を満たし、なおかつ区民のボランティアなどによってチェックを受けた約215軒のお店が紹介されている。



墨字版はA4判、40ページで、6000部を発行。一方、500部作成したCD-ROM版は施設別、地域別、整備内容別、地図の4つの検索機能を付け、墨字版ではピクトグラム化した元データをそのまま一覧表形式で収録。また、墨字版では白黒の写真もカラーで載せている。実際に使ってみると、動作も速くて快適、なかなかの優れものだ。

ほかに、施設の名前と住所、電話番号のみを収録した点字版も100部作成している。いずれも、まだ多少は残部があるので、区民以外の希望者にも送料自己負担で郵送してくれるそうだ。

問い合わせ先:杉並区厚生部管理課
(TEL:03-3312-2111=代表)

ていることは必ずしも悪いことではないと思うが、一番危惧されるのは「晴眼者の感覚で作ってしまうこと」という。「視覚障害者にとって触地図は、頭の中で描いた『メンタルマップ』を後付けで確認するための補強手段にすぎない」と強調する。

同様に、杉山悦雄^{すぎやま えつお}サン工芸社長は触地図に求められる条件として、「視覚障害者の専用品ではなく、みんなが利用する共用品であること」を挙げたうえで、「あくまでも利用者が自分の能力によって『触ってわかる』ことが重要であり、ハイテクに頼った過剰な音声による説明などはかえって使い勝手を悪くする場合もある」と指摘している。

そして、関係者が異口同音に指摘する課題は「設置場所の周知徹底」だ。いくら触地図を設置しても「そこにあることがわからなければ使えない」のである。

実際、こんな声も聞いた。阿佐ヶ谷に住むある30歳代前半の主婦はパールセンターの触地図について「せっかく設置したのに、前を放置自転車がふさい

でいることが多くて、あれでは誰も近づけない」と憤慨する。また最近、全面改修してエレベーター、エスカレーターが完備された営団地下鉄のN駅には触地図も同時に設置された。だが、その場所はほとんど死角に近い駅構内のはずれ。「いくら誘導ブロックが敷かれていても、そこまでわざわざ行くか疑問」とは同駅のある利用者の声。

数年前までは、まれにしか見かけることがなかった触地図。それだけに、こうした問題点も急速に普及してきたがゆえの「ぜいたくな要望」と言えるのかもしれないが、「専用品を共用品化するための課題」を考える試金石として、今後とも関係者のさらなる改良と創意工夫への努力が期待されよう。

問い合わせ先:
帝都高速度交通営団広報課(TEL:03-3837-7045)
(福日本点字図書館点字製作課(TEL:03-3209-0241・代表))
㈱GK設計道具設計室(TEL:03-3360-8366)
㈱サン工芸(TEL:0774-23-1133)
㈱オリエンタルランド広報室(TEL:047-305-5111)

Welcome to the K

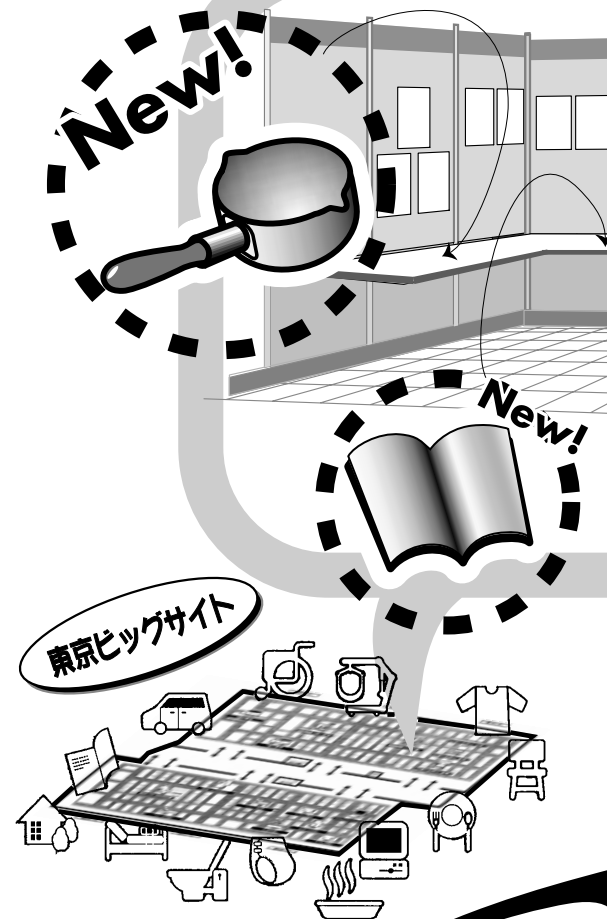
「国際福祉機器展」 ブースマップ

9月12～14日に東京・有明^{ありあけ}の東京ビッグサイトで開かれる「第27回国際福祉機器展」に出展する(財)共用品推進機構のブースは、初参加の前年の2倍のスペースに!

約100点の最新の共用品・共用サービスの現物を展示し、楽しさも倍増。わかりやすい表示、操作における使いやすさ、わかりやすいカタログ・取扱説明書・パッケージの要件を満たした玩具、日用雑貨、家電製品、IT(情報技術)機器、キッチンウエア、食品など幅広い分野から集めた「優れたもの」ばかりです。

どうぞ、お越してください!

共用品推



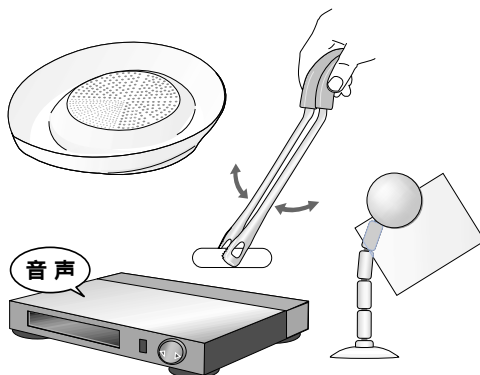
操作における わかりやすい表示

1. 見てわかる(光る)
2. 聞いてわかる(音声)
3. 点字、凹凸部をつける
4. 大きな文字
5. コントラストをはっきり
6. 絵や図をつける
7. その他

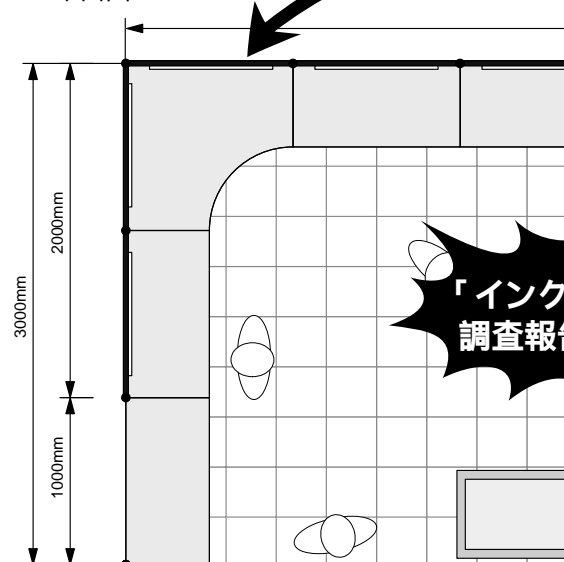


操作における 使いやすさ

1. 片手でも使える
2. 弱い力でも使える
3. 聴覚にたよらない
4. 視覚にたよらない
5. 細かい操作がいらぬ
6. 自動化されている
7. その他



< 平面図 >

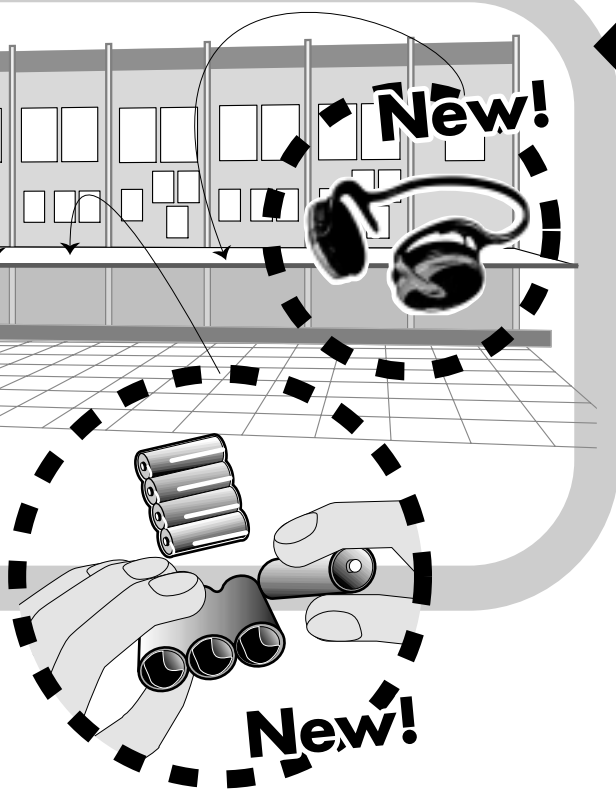


「インク
調査報

Kyoyo-Hin World !

(イラスト:西川 菜美、橋本 英和)

進機構展示ブース



共用品推進機構のブースは
「東展示ホール1・小間番号1-402」

■ 第27回国際福祉機器展

会期：9月12(火)～14(木)日
 時間：午前10時～午後5時
 会場：東京ビッグサイト東ホール
 交通：ゆりかもめ「国際展示場正面」駅、または臨海副都心線「国際展示場」駅下車ほか
 入場：無料(入場登録制)
 URL：<http://www.hcr.or.jp/>

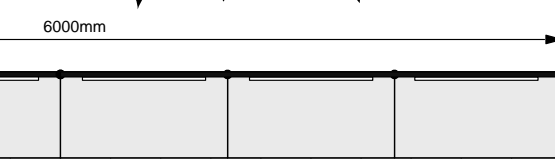
問い合わせ先：

HCR2000事務局

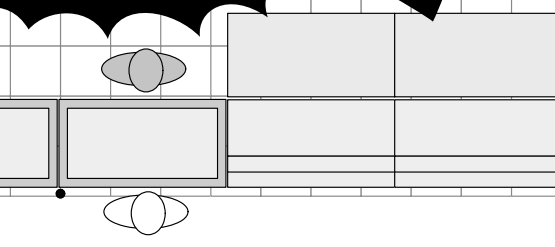
TEL：03-3580-3052

FAX：03-5512-9798

最新の共用品がいっぱい!



「バックナンバーや
 吉書も展示販売



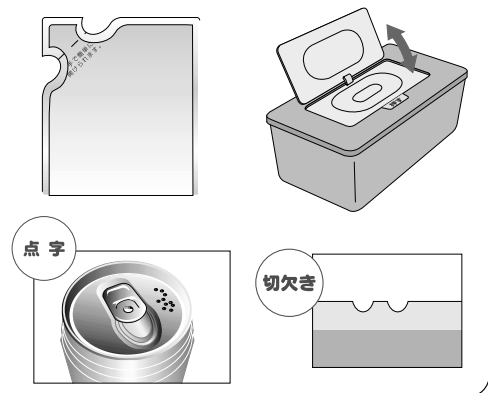
わかりやすい カタログ・取扱説明書

1. 大きな文字
2. コントラストをはっきり
3. 音声・テキスト
4. 点字・エンボス
5. 他国語
6. その他



わかりやすいパッケージ

1. 識別しやすい
2. 開封しやすい
3. 取り出しやすい
4. 持ちやすい
5. 再封しやすい
6. 計量しやすい
7. 捨てやすい
8. けがをしない
9. 軽い
10. その他



● ニュース&トピックス

新製品

“仮想の炎”で加熱状態が目でわかる!

まつしたでんきさんぎょう
松下電器産業、「光るリング」付きのIHヒーター一発売

松下電器産業はリング状の発光ダイオード(LED)によって加熱状態を視覚的に知らせる「光るリング」を内蔵させたビルトイン型のIHクッキングヒーター「KZ-321G」(=写真)を、9月1日に発売した。なじみのある「火がついた感覚」を擬似的に創り出したもので、こうした工夫を採用したIH調理器は初めてという。

火を使わずに、磁力線の働きによってなべ自体を発熱させて調理する電磁誘導加熱式のIH調理器は、安全性とクリーンさが受けて、このところ急速に販売を伸ばしている。松下電器によると、今年は前年比約60%増の18万5000台の販売が見込まれている。その半面、とくに高齢者のユーザーからは「加熱状態を、ガスのように目で確かめたい」という要望が増えているという。

そこで、視覚に訴える「光るリング」を開発、本体に内蔵させた。IHヒーターのスイッチを入れると自動的に赤く点灯し、なべを置く位置のガイドにもなる。このほか、ボタンを大きくし、見やすいオレンジ色の液晶を採用するなど、操作部も改良してい



る。

標準価格(工事費別)は23万円。また、シルバータイプの「KZ-321GS」(24万5000円)、換気連動タイプの「KZ-321GR」(24万円、10月1日発売)があるほか、「光るリング」の付いていないタイプもある。

(高嶋 健夫)

問い合わせ先:

松下電器産業(株)電化調理事業部システム営業部
(TEL:078-992-9464)

バック駐車お助け反射シール
かんそう
完装、「サンクリア」の新タイプを発売

「駐車場のバリアフリー」をめざし、危険性が高く、身体への負担も大きいバック駐車を楽しむための反射シール「サンクリア」を製造販売している完装(本社福岡市、社長深見和己氏)は、新製品の「サンクリアF-1D」を発売した。

「サンクリア」は自動車のバックライトで光る反射シールを路面などに目印として貼るもので、完装の地元の「福岡市福祉のまちづくり条例」の施設整

備マニュアルでも事実上、推奨されている、従来の製品が直径13センチの円形シールなのに対して、「F-1D」は1辺12センチの正三角形のシールにしたのが最大の特徴。使用方法は同じで、これを駐車場の路面や壁面に貼り付ける。

価格は、4枚1組で900円。セットには、車止めや段差などの「つまずき防止」用にシールをさらに小さく四分分割して使えるように型紙を取扱説明書に添付したほか、4分の1サイズのサンプルシール1枚も付いている。

(高嶋 健夫)

問い合わせ先:

(有)完装(TEL&FAX:092-431-0529)

● ニュース&トピックス

新製品

インターネットができる意思伝達装置 日立製作所、ALS患者向け「伝の心」に搭載

日立製作所は、ALS（筋萎縮性側索硬化症）患者向け意思伝達装置「伝の心」で利用できるインターネット関連ソフトウェアを新たに開発、同ソフトを組み込んだ製品の販売を始めた（=写真）。電子メールの送受信やホームページの閲覧などを、1つのスイッチでできるようにしたのが特徴。価格は重度障害者の日常生活用具の給付対象となる50万円に据え置いている。

ALSは全身の筋肉が萎縮していく原因不明の難病で、厚生省指定の特定疾患になっており、全国に約4500人の患者がいるとされる。「伝の心」はこうしたALS患者のための意思伝達装置として97年に発売、現在までに約570セットを出荷している。

「伝の心」のシステムは、専用ソフトをインストールしたパソコンやプリンターなどに、使用する患者さんの状態によって入力ユニットとしてタッチ式センサー、非接触式の磁気センサーなどを選んで組み合わせる。

今回搭載したインターネット機能は、ユーザーの



要望に応じて開発したもので、専用メーカーを新たに開発したほか、ホームページ閲覧については市販ブラウザを1つのスイッチで操作できる機能を装備、約20人のALS患者によるモニター調査によってさまざまな改良を図ったという。

なお、販売はグループ会社の日立^{けいよう}京業エンジニアリング（TEL：047-472-8437）が行う。（高嶋 健夫）

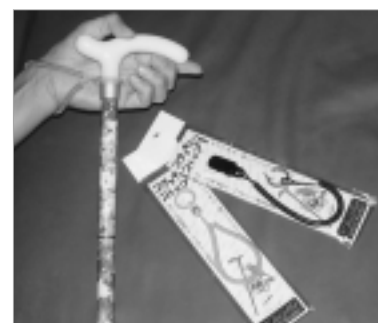
問い合わせ先：㈱日立製作所情報コンピュータグループ事業企画本部情報機器アクセシビリティ事業推進室（TEL：03-5471-8918）

おしゃれなステッキ用ストラップ 「チャップリン」のサン・ビームが発売

ステッキ専門店「チャップリン」を経営するサン・ビーム（本社東京都渋谷区、社長山田澄代氏）は、ステッキの転倒防止用の「ステッキーストップ！」（=写真）を開発した。9月12日からの国際福祉機器展でお披露目し、同時に発売する。

このストラップは、杖が手から放れて転がった場合に、あわてて拾おうとして腰を痛めたり、思わぬ怪我をしたりする危険性が高いことから、山田さん自身が考案したもの。

手に通すリングタイプと、衣服に留めるクリップタイプの2種類がある。材質はコード部分はいずれもアラミド中芯入りポ



リウレタンで、リングはシリコン、クリップはポリカーボネイトとポリアセタール。カラーは赤、青、黒など8色を用意している。標準価格はいずれも1200円。

（高嶋 健夫）

問い合わせ先：
サン・ビーム㈱（TEL：03-5454-1431）

● ニュース&トピックス

共用品推進機構

食生活に関連した共用品を紹介

「バリアフリーでクッキング」展 大阪のATCエイジレスセンターで開催中

「21世紀の食生活 バリアフリーでクッキング」と題した展示会が、大阪・南港のATCエイジレスセンターで9月30日まで開かれている。

同センターが(財)すこやか食生活協会、(財)共用品推進機構との共催で企画・開催しているもので、誰にでも使いやすい調理器具など食生活関連の共用品を展示しているほか、「食べやすさ」「栄養バランスのよさ」といった食生活の基礎知識なども併せて紹介、従来の共用品の展示会には見られないユニークな内容となっている。

会場では、まず壁面を活用したパネル展示で、共用品・共用サービスの考え方をわかりやすく解説すると共に、バリアフリー料理のレシピなども紹介している。

中央テーブルでは Tongue、ふた開け器、計量カップ、調理用ラップフィルム、IH調理器、缶ビール、キャップの形状で中身が区別できる醤油などをさまざまな便利な共用品を現物展示。試験的に採用が始まった牛乳パックの「識別用切り欠き」も原寸モデルが置かれている。

このほか、川嶋工業、堂本食品、陶片朴工房、婦人之友社の各協力企業の展示コーナーも設けられて



トランプを使って共用品を紹介したおなじみのパネルの前には、川嶋工業製のフライパン返し、ワインオープナー、缶切りの3種類の利き手別の器具が左右対照に並べられ、「右利きvs左利き」のユニークな展示が実現 (撮影:橋本英和)

いる。

会場は大阪市住之江区南港北にあるアジア太平洋トレードセンター(ATC)ITM棟11階の「ATCエイジレスセンター」で、最寄り駅はニュートラム「トレードセンター前」駅。開場時間は午前10時半～午後5時半、水曜休館。 (高嶋 健夫)

問い合わせ先: ATCエイジレスセンター事務局
(TEL:06-6615-5123、FAX:06-6615-5240)



壁面を有効に活用するなど、限られたスペースで楽しく、役に立つ展示を心がけた会場(撮影:橋本英和)

赤、青、黒はみな同じ色!? 「色」の違いを「文字」で知る

.....先日、ヤマト運輸の芳賀優子^{はがゆうこ}さん（個人賛助会員）とデパートの文具売り場に行った時のこと。「会社で支給される赤と黒のボールペンは、私にとっては同じ色」と彼女。「赤で書かなくてはいけない時のために、赤いボールペンには輪ゴムを巻いている」と言う。

文房具売り場には、所せましとカラフルなボールペン・サインペン・マーカーが幾種類も並べられている。が、色の違いはキャップの「色」で識別するようになっており、弱視である彼女の目にはコントラストが同じなものは、同じ色に映る。

.....芳賀さんとの付き合いはもう10年近くなる。その間、彼女からは

「私の目に世界は、白黒テレビ」と何度も聞いていた。けれども、たかさんのカラーペンの前に彼女と共に立ってみて、彼女の不便さを改めて知らされた思いだった。

その後、改めて丹念に端から探してみると、ボディに「文字」で「あか」とか「あお」とか書かれているペンを発見。それも見やすい太文字だ。「これなら、輪ゴムを巻かなくても識別OK!」と芳賀さん。このペンに色の表示が文字で書かれているのは、彼女のような弱視の人のため.....とは思えないが、このペンなら彼女もわざわざ輪ゴムを巻かなくていいことを、企業の人に伝えたいと思った次第。

.....共用品の規格作りが、進んでいる。国内では10、11月と続けて、包装容器と操作部凸表示に関する規

格が日本工業標準調査会の審議を経て公示されるに至った。また、ISO / TAG（国際標準化機構 / テクニカル・アドバイザー・グループ）のワーキング委員会で検討されてきた高齢者・障害者のニーズに関するガイド(案)は、各国の委員の意見が出揃い、ISO事務局でのまとめ作業が終わると、いよいよISO加盟国約130カ国およびIEC（国際電気標準会議）加盟国の一部に一斉に配布される。4カ月間書面にて意見を求めることになる。早ければ、2001年の春過ぎにもこのガイドが出版される。

消費者の意見から始まったこの活動だけに、多くの消費者の意見をいつまでも大切にしながら作業を進めていきたいと願い、思う。（ ）

■次号(11月15日発行予定)のご案内

「ISO13407」&「共用品の新しいJIS」を総力特集! 国際福祉機器展で見つけた共用品も紹介

次号では、「IT(情報技術)革命」が進展する中で、デジタル時代の共用品・共用サービス、あるいはユニバーサルデザイン製品の開発に欠かせない新たな規格として脚光を浴び始めている「ISO13407」にスポットを当て、各所の取り組みの最新動向を探ります。デジタルデバインド(情報格差)の解消に向けても注目され

ます。併せて、共用品・共用サービスに関連する新しいJIS(日本工業規格)の詳細も紹介します。

また、9月に東京・有明で開かれた「第27回国際福祉機器展」に出品された多数の共用品・共用サービスもご紹介したいと考えています。次号の「インクル」にも、どうぞご期待ください。

「共用品の商品ガイド」

ことう よしかず
後藤 芳一（個人賛助会員、日本福祉大学兼任講師）

身近な共用品について、手早く知りたい。このような時には、書籍や関係団体・企業による商品案内が便利だ。（添え字 は同様の用語が『インクル』第1～7号の本欄に既出であることを示す）。

1. 「共用品（分野や業界横断的）」関連

共用品の紹介を主目的に発行されているもの。共用品推進機構「共用品展示リスト」（1999年）、同「インクル」（隔月刊）、「バリアフリーの生活カタログ」（小学館、97年）、GbyK「Universal Design」（季刊）、日経事業出版「バリアフリーガイドブック2000」（2000年）、日本玩具協会「目や耳の不自由な子供たちも一緒に楽しめるおもちゃカタログ1999▶2000」（99年）、家電製品協会「高齢者・障害者にも使いやすいと思われる家電製品一覧表」（2000年）、コクヨ「暮らしラクラクごきげん生活用品」（2000年）などがある。これらの掲載商品は、福祉用具産業懇談会 と共用品推進機構による「共用品の6類型」では、概ね「共用設計製品（ ）」や「バリア解消製品（ ）」に対応すると考えられる。

2. 「共用品（メーカー系個別企業）」関連

企業の商品カタログにも、この分野に焦点をあてて編集しているものがある。トヨタ自動車「ウェルキャブシリーズ総合カタログ」（2000年）、松下電器産業「いきいきフレンドリー 99」（99年）、三洋電機「愛着逸品」（2000年）、TOTO「高齢者・家族・介助者を配慮した、新しい水まわりプランの提案 レプリスブック」（2000年）、INAX「やさしい暮らしプランニングガイド“住宅水まわり編”」（99年）、同「パブリックトイレ編」（99年）

などがある。ライオンは「製品カタログ」と「新製品カタログ」をそれぞれ大活字版と点字版で毎年交互に発行している。共用品の6類型では、概ね

「共用設計製品（ ）」や「バリア解消製品（ ）」に対応すると考えられる。

3. 「高齢者や介護」関連

高齢者の介護やヘルスケアを対象に、日常生活に便利な共用品が紹介されているものがある。グリーンコープ福祉連帯基金「しあわせ生活自由自在」（2000年、会員向けの通信販売カタログ）、産経新聞メディックス「ヘルスケア用品食品ガイド2000年版」（2000年）、近代家具出版「福祉環境」（月刊）共同通信「人にやさしい道具 シニア生活を豊かにする便利な商品たち」（宝島社、99年）、浜田きよ子「高齢者が使いやすい日用品」（晶文社、98年）、主婦と生活社「高齢者の元気な暮らし方とやさしい生活道具」（96年）、建築資料研究社「積算ポケット手帳 99『福祉・環境編』ビューティフル・バリアフリー」（99年）、エイジレスライフデザイン研究所「高齢者・障害のある人が安心して快適に入浴できるお風呂づくりガイドブック」（2000年）、婦人之友社「シニアの食卓」（2000年）などがある。共用品の6類型では、概ね「共用設計製品（ ）」や「専用福祉用具（ ）」に対応する。

4. 「障害者」関連

障害者の生活の利便をめざすことにより、福祉用具の範囲を超えて、幅広い利用者に便利な共用品が紹介されているものがある。朝日新聞厚生文化事業団「身近で小さな福祉用具（自助具の考え方と作り方）」（99年）、弱視者問題研究会「見えない・見えにくい人の便利グッズカタログ（大活字、99年）、すこやか食生活協会「ぬくもり商品ガイド 視覚障害者・高齢者にやさしい商品例」（99年）、日本盲人社会福祉施設協議会「視覚障害者用福祉機器の手引き書＜改訂版＞」（97年）などがある。共用品の6類型では、概ね「共用設計製品（ ）」や「専用福祉用具（ ）」に対応すると考えられる。



インクルの^{ほほえ}微笑み

共用品発掘隊、韓国に行く

7月8日土曜日。東京に台風上陸の知らせを受けながら、私と友人は成田から韓国ソウルに向けて旅立った。当初、飛行機は定刻より大幅に遅れての離陸となることが知らされていたが、嬉しいことにその見込みを裏切り、定刻どおり出発した。

さて、私たちの目的はといえば、もちろん焼肉、チゲ鍋、冷麺にビビンバの食^{さんまい}三昧に、極めつけはエステティック。心弾ませ、金浦^{キンポ}空港へ降り立った。さっそく、お迎いのバスに乗り込み、添乗員さんに美味しいお店とエステサロンを聞き出し、まずは順調な滑り出し。

夜も更け、本日はホテルに戻って「2人で晩酌！」と、コンビニに飲み物、食べ物を買ったその時に、目に飛び込んできたもの、それは点字の入ったビール！ それも缶だけでなく、瓶にまで刻印されているではないか。思わず「オオーッ」と声をあげて感動。カゴいっぱいになるまで、店中の点字入り缶ビール、瓶ビールを買い込んだ。

すでにこの時点でビールたちは飲むものではなく、「やがて異国で展示されるもの」と化し、当初目的の「韓国食三昧美顔三昧旅行」は一転、「韓国共用品発掘紀行」に変わってしまった。悲しいかな、これは立派な職業病であるといえましょう。

次の日も、かの有名な「ロッテ百貨店」に足を運

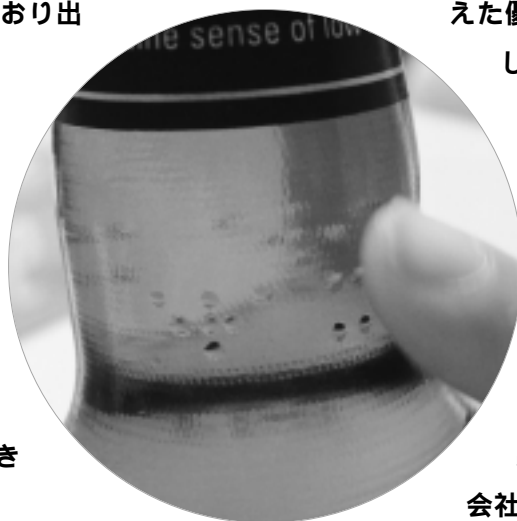
んで、韓国における「共用品」探しが始まった。まずは家電製品。ハングル文字が記されている韓国製の電話を見つけて購入。文字が大きいだけでなく、着信時にフラッシュで知らせてくれる機能も備えた優れものである。価格も日本円にして3800円くらい。実際に使用している店も目撃した。

また、家電製品売り場で偶然見たテレビ番組では、車いすの男性が出演するドラマが放映されていた。売り場の方に番組について聞くと、「韓国で今人気のドラマ」だとか。テレビのコマーシャル(おそらく通信会社のものと思われる)では、雨の日の駅で待っている女の子に、父親と思われる人物が傘をさして現れ、2人がさりげなく手話で会話するところが放映されていた。2泊3日の旅行中に3回も見たのだから、割と頻繁に放映されているに違いない。

お隣の国・韓国でもいろいろなバリアフリーの取り組みがされている。海外とコンタクトをとって、「みんなが使いやすい共用品」の発掘をもっともっとしていきたいものである。共用品発掘隊は、国を変え、品を変え、今後ますます勢力を増

し続けるに違いない。皆さんも海外に行かれた際は、「共用品」のことを頭の片隅において、イイモノが見つかりましたら、是非ともご一報を！

(取材・文/ ^{もりかわ} 森川 ^{みわ} 美和)



『インクル』バックナンバーのご案内

ご購入希望の方は、事務局までお申し込みください。



創刊号 1999年7月



第2号 1999年9月



第3号 1999年11月



第4号 2000年1月



第5号 2000年3月



第6号 2000年5月



第7号 2000年7月

『インクル』は共用品推進機構の機関誌です！

共用品情報誌『インクル』は隔月刊で発行し、個人・法人賛助会員の皆様に郵送でお届けしています。共用品推進機構では引き続き、個人・法人賛助会員を募集しています。年会費は、個人が1人1万2000円、法人が1口20万円。入会申し込み・お問い合わせは、下記の事務局までお願いいたします。

『インクル』は共用品の専門情報誌です！

新製品・サービスの発売、新技術の開発、展示会やイベントの開催、常設展示場の開設—共用品・共用サービスに関するニュースの提供をお待ちしています。リリース、資料などは事務局『インクル』編集部まで。また、広告の出稿もお待ちしています。『インクル』の読者は共用品・共用サービスの普及を担うオピニオン・リーダーです。出広媒体としても積極的にご活用ください。広告料金表は事務局にご用意していますので、お問い合わせください。

『インクル』は消費者と企業をつなぐ架け橋です！

個人の寄稿・投稿も大歓迎。「バリアフリーサービスの素敵なお店」「心のバリアフリー体験談」「海外ユニバーサルデザイン事情」などなど、個人賛助会員の皆様、法人賛助会員の読者の方々からのご意見を、お手紙、FAX、電子メールで、事務局『インクル』編集部までお寄せください。

作る人と使う人の共用品情報誌

インクル 第8号

2000(平成12)年9月10日発行

"Incl." vol.2 no.8

©The Kyoyo-Hin Foundation, 2000

隔月刊、奇数月に発行

一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

視覚障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構

郵便番号101-0064

東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル8F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局 星川 安之

森川 美和

橋本 英和

編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 草地美穂子

(五十音順) 小塚 通宏

後藤 芳一

西川 菜美

牧内 智子

山本 明彦

制作 日経BPクリエイティブ

印刷・製本 光写真印刷株式会社

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複製することを承認いたします。その場合は、(財)共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複製することは著作権者の権利侵害になります。